

## 2005 FJ1600 岡山ラウンド

### ■6月15～19日 フリー走行

今回は岡山国際サーキットで行なわれた F3 レースの前座にスポット参戦しました。このサーキットは鈴鹿と違い、ストップ&ゴーのサーキットで来年の事を考えるとどんなサーキットでも速く走れるようにならないかと思ひ参戦しました。岡山シリーズは参加台数は少ないものの毎回優勝者が違い、誰が勝ってもおかしくないほどそれぞれのレベルは高く均一したシリーズです。その中で自分がどこまでやれるか楽しみでした。

今週は水曜日から走り始め地元の人々の後ろについてラインなど覚えたり、自分の遅いとこなどを確認することから始めました。しかし時々タイムは出るもののなかなか安定してタイムを刻むことが出来ず、ラインもバラバラ。地元の人も毎日いるわけでもなく自分しか走っていないときに「自分のタイムは出せているほうなのか？」など、気にしすぎてしまい常に焦っている感じでした。それでも少しづつセットを変えたり、ラインを試しながら乗ってみてベストタイムを更新して金曜日には地元の人たちと変わらないタイムで走れるようになりました。しかしいつもの自分なら車に頼る部分より「自分でどうにかしよう！」という気持ちがあるのですが、今回は車のセットに頼ろうとしてしまい一番大事な「クリップにつくという事や毎週同じラインを走る」という基本的なことがおろそかになっていた気がします。

### ■6月18日 土曜日 公式予選

今回の予選は F3 と一緒に土曜日曜ともに決勝が行なわれる為、1 回の予選のベストタイムが土曜のグリッド、2 番目のタイムが日曜のグリッドという形で行なわれました。

そんな中、予選が始まり金曜のいいタイヤで走った時の状態と路面温度のことも考え少しセットを変えてコースイン。台数は少ないことからクリアを取るの簡単で、とりあえず基本の「ちゃんとクリップにつく」ということを意識して走り始めました。徐々にタイムは上がり始めたのですが「もっとタイムをあげよう」と考えると、突っ込みすぎてクリップにつけなくなったりコースからはみだしてしまったりとミスが出始め、完璧に 1 周まとめることが出来ないまま予選を終えてしまい第 3 戦 2 位、第 4 戦 2 位、というグリッド順になってしまいました。

トップとの差は 0.15 秒くらいで、今の走り方でもミスさえしなければ十分 PP も取れたと思います。けれど PP をとることが目的ではなく、遠征したサーキットでもタイムの出し方に気付き、すぐそのコースの走り方に合わせられるようになるための遠征だったので、そのことを考えるとまだまだ自分の力不足を痛感しました。

### ■6月18日 土曜日 第3戦決勝

心配していた天気も問題なく気温、路面温度も非常に高くなりました。レース後半、タイヤに負担がかかることが予想され前日のテストで試していたセットに少しだけ変更しフォーメーションスタート。自分としては 1 周目に後続を引き離しそのまま逃げ切りたく、自分のペースでタイヤを暖め、いよいよ決勝スタート。

シグナルレッド・消灯・スタート！

タイミングもバッチリで 1 コーナーまでにトップに立ち、レース前に考えていたように後続を引き離そうと必死でプッシュします。しかし、自分が異様に遅いコーナーがあり、そこであつという間に追い付かれ 4 周目には 1 台にパスされ順位を落としてしまいます。けれどすぐに抜き返し再びトップに立つのですが、残り周回数がものすごく多いように感じ「早く終わってくれ！」と思いながら必死で首位をキープします。

そんな中ヘアピンのブレーキングでシフトミスをしてしまい 2 位を走行していた車と接触。幸いマシンにダメージはなくこのまま残り 1 周逃げ切ろうと自分の得意な最終コーナーで後続を引き離しファイナルラップに入ります。しかし、そのファイナルラップの 1 コーナーで再び、痛恨のシフトミス！どうにか体勢は立ち直せたものの、そのままアウトからかぶせられサイドバイサイドのまま 2 コーナーへ。ここで右コーナーの 1 コーナーに対し、続く 2 コーナーは左コーナーでアウト側とイン側が入れ替わります。「このまま行くと自分のすぐ後ろにいる 3 番手にも抜かれる」と思い、ここは一旦引き、自分の得意な最終コーナーからのラスト・ワンチャンスにかけます。しかし、早くアクセルを開けようと気が焦ってしまいリアが流れ、最終コーナーも上手いこと立ち上がれずにそのまま 2 位でチェッカーを受ける事になりました。ゴールした瞬間自分のミスのくだらなさに情けなくなり怒りがこみ上げてきました。けれどそれが今の実力でもあり、ミスした後の対応にも課題が見えたレースでした。

今回はダブルヘッターで明日もレースがあるので気持ちを入れかえ、今日遅かったコーナーをビデオで確認して明日のレースに備えました。

## ■6月19日 日曜日 第3戦

この日は朝一番のレースで気温、路面温度ともに昨日より低くその事を考えてセットも変更し昨日悪かったコーナーを確認しながらフォーメーションでしっかりタイヤを温め決勝スタート。

シグナルレッド・消灯・スタート！

またしてもスタートは決まりトップで1コーナーへ。そこからは昨日に引き続き2番手、3番手と目まぐるしく順位が入れ替わります。自分が仕掛ける時は当たり前のような1コーナーのブレーキングだったりするのですが、地元の選手と一緒に走って自分では思いつかないようなところから抜いてきたりするので必要以上にブロックラインを走ってしまったりと、相手のペースで走らされていたと思います。そして4周目の1コーナーで2位の選手に仕掛けたとき、明らかなオーバースピードで入ってしまいそのままコースアウトしてしまいました。

その時、5位までポジションを落としタイム差も6秒くらいあったのですが、絶対に諦めず「追いついてやろう」と思い必死でプッシュし続けます。そこからは予選タイムを上回るタイムをたたき出し、ファステストラップを記録しながら一周に1秒くらいずつ差を縮め、ファイナルラップには3台によるトップ争いに追いついたのですが、追い上げもそこまで結局は4位でチェッカーとなりました。

レースを終えて2位の選手に仕掛けた時のことを思い出し、「仕掛けた場所、仕掛けた周回」などいろんな事を考えたとき、自分のレース運びの未熟さを実感しました。自分にはいい意味での自信や気持ち的な余裕が無く、いつもくだらないミスで自分の勝てるチャンスを潰しています。このままでは今年のチャンピオンはもちろん、これからステップアップした後も通用しないと思うので技術に加え、そういう面も伸ばしていきたいと思います。今回の遠征で気付いたことはものすごく大きな収穫になり、この事を鈴鹿にも繋げていくので引き続きご指導、応援宜しくお願いします。